教育委員会だより

河北小学校で「外国語活動」の授業公開
―町内の小学校・保育所の先生方が勉強会―

このほど、河北小学校で「外国語活動」の授業が公開され、町内全小学校と保育士の先生方が学び合いました。

4月から本格実施となる小学校「外国語活動」

これは、「学びの共同体」の授業研究会の一環として、11月10日に実施された上ノ国小学校の「総合学習」に続く2度目の公開授業でした。

「外国語活動」は4月から小学校5・6年生で本格実施となることから、これまでの2年間、それぞれの学校で工夫と準備を重ねてきましたが、一堂に会して学び合うのは初めてのことでした。

担任とALTが力を合わせ安心して学ぶ授業づくり

河北小5・6年生9名の子どもたちが担任の管野先生と鈴木先生の指導の下、ALTのデイビッド・レイさんの力を借りて学びました。

英語であいさつを交わし、知っている世界の国名の発音を学び、続いて、デイビッドさんの行きたい国とその理由を教えてもらいました。

上ノ国では、英語指導助手を雇用し、安心して教え、学ぶ条件づくりに努めていますが子どもたちもデイビッドさんも喜んで学び合っています。

子どもたちの工夫 河北の特産物を英語で

次は子どもたちの出番です。何と、デイビッドさんに河北地区の特産物紹介です。「米・炭・そば」の3チームに分かれ、紙芝居やクイズを交え、たどたどしいながらも英語で紹介を始めました。

しかも、石臼体験、こうれんやそば粉ホットケーキの試食などを組み入れてのみごとな紹介だったのです。

子どもたちはデイビッドさんに、河北ならではの特産物のことを伝えたくてならなかったのです。デイビッドさんの顔がほころびます。指導する先生の顔もほころびます。何よりも、子どもたちの表情がとても生き生きしています。

伝えたい思い持たせる授業づくりの大切さ学ぶ

「外国語活動」については、中学英語の前倒しとなって、早くから英語嫌いを生み出すことが心配されています。

しかし、この研究会を通し、授業づくりの様々な工夫ができること、何より、子どもたちが「知りたい、伝えたい」思いを持つとき、コミュニケーションが成り立つことを学び合うことになりました。

研究会は、伝えたいことをしっかり心に刻む毎日の授業づくりの大切さを確かめ合うまたとない機会となりました。

デイビットさんとコミュニケーション

滝沢小学校でふるさと学習の成果を発表

3月4日（金）滝沢小学校5、6年生が地域学習の一環としてふるさとの歴史を学習し発表会を行いました。5年生が「滝沢の昔の生活」、6年生が「勝山館の生活」をそれぞれ研究し、発表するものです。発表会へは教育委員会事務局から総合学習を手伝った文化財グループの学芸員が招かれました。

「滝沢の昔の生活」

5年生は滝沢の人たちがどのように生活していたか、滝沢に住んでいるお年寄り達に会って話を聞き、発表資料をまとめました。

昔の滝沢小学校は三百人以上の児童がいて今よりも賑やかだったこと、食事では魚や野菜中心で肉はあまりなく、その時代に自分が生きていたらあまり食べることができなかった気持ちなどを発表してくれました。昔といっても50年から60年前の事です。ですが今の生活とのあまりの違いに研究をした児童たちも驚いた様子でした。

「勝山館の生活」

6年生は勝山館の生活について学習し、わからないことは教育委員会の塚田学芸員に聞き、発表資料をまとめました。勝山館では和人とアイヌがいたこと、勝山館跡の成り立ち、生活の様子などを自分なりの感想を述べながらの発表となりました。

上ノ国町は全国でもめずらしい中世の文化財が残る町です。今回の学習を機に自分たちのふるさとを知り、誇りをもってもらいたいものです。

発表をしてくれた児童は絵や人形を使ったり、紙芝居形式での発表や合間にクイズを出題したりと発表を聞く人に飽きさせない心配りをみせてくれました。

堂々と発表する子どもたち